

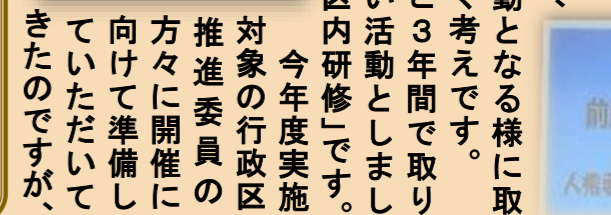
一年間の活動を振り返って

今年度も、皆さまには大変お世話になりました。おかげさまで、コロナ禍が続く3年目ではありますが、「人権講演会」・「フィールドワーク」・「人権映画祭」・「支部と東中学校や怡土小学校との交流会(意見交換)」など大きな行事は一人の感染者も出さずに無事実施することができました。

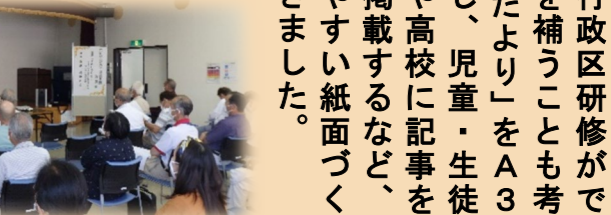
また、小中学校で毎月2回実施している「あいさつ運動」も実施することができました。



運動のあり方については、改善に向けた意見が民生・児童委員会の方から提起されました。今年度内には学校と意見交換を行い、主人公である児童



・生徒さんたちにとって、より良い活動となる様に取組んでいく考えです。一方、ここ3年間で取り組めない活動としましては、「行政区内研修」です。今年度実施対象の行政区推進委員の方々に開催に向けて準備していただいていたのですが、



コロナ感染が鎮静しないことと鑑みて、一か所にお集まりいただくことのリスクを考慮して、やむなく中止する判断をした次第です。そこで、行政区研修ができない部分を補うことも考えて、「人権だより」をA3両面刷りとし、児童・生徒さんの作品や高校に記事をお願いして掲載するなど、皆様が読みやすい紙面づくりに努めてきました。

皆様にも、ぜひとも紙面作りに参加して頂きたく、ご意見や投稿をお待ちしていますので、よろしくお願ひ致します。また、コロナ禍はこれからも続くものと思えます。行政区推進委員さんともにも知恵を絞りながら怡土校区人権運動を進めてまいります。今後とも、皆様からご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

フィールドワークに参加して — 大刀洗平和祈念館で戦争を考える —

秋晴れの11月8日、戦争の悲惨な記憶をとどめる大刀洗平和記念館、そして米軍爆撃機の空襲で児童31人が爆死したという、頓田(とんた)の森を訪ねました。

日本陸軍の大刀洗飛行場は航空史上、飛行機製作を含め卓抜なる技術を有していたことを知りました。

また、浮羽歴史民俗資料館、大石堰とめぐりの中で、苦難にめげず灌がい工事に力を尽くした先人の方々の熱意・ご苦労に思いを馳せました。

ともに、屈指の技術とたゆまぬ努力がありながらも、その能力を片や戦争に利用した末に大きな犠牲を生むという負の爪痕を残し、一方は、江戸時代に干ばつに苦しむ多くの農民のいのちを救った偉業として



讃えられるというコントラストの効いた学びとなりました。
【末永行政区推進委員】

お待ちして頂きたく、ご意見や投稿をお待ちしていますので、よろしくお願ひ致します。また、コロナ禍はこれからも続くものと思えます。行政区推進委員さんともにも知恵を絞りながら怡土校区人権運動を進めてまいります。今後とも、皆様からご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

お隣の中国は、いきなり止めたゼロコロナ政策のありで感染者爆発。韓国や日本は防疫強化に振り回され、このことに対する報復のような中国政府のビザ発給業務の停止。北朝鮮はミサイルを打ち続ける、日本政府は国民に問うことなく反撃能力を持つことを決めてしまった。

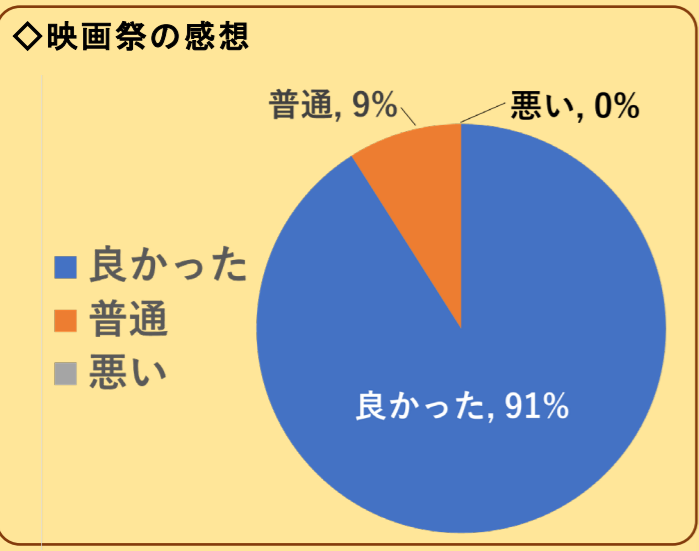
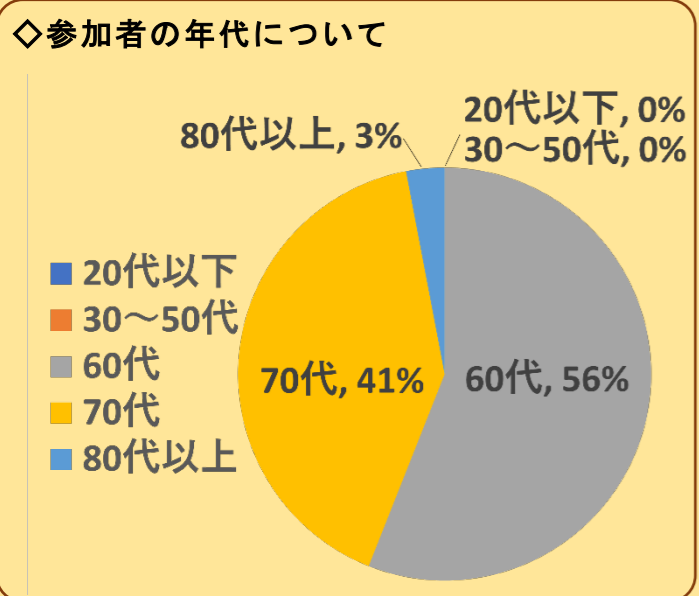
すべてが、「我良ければ他は構わない」というエゴのようを感じ、世界中が終末に向かつて一直線に走っているように感じられます。グローバル化を一心に進めてきた国々がこの有様。いまこそ、日本の良き文化である思いやり・助け合いを世界中に広めていかなければと思うのですが!

令和4年度
第3号
3月1日発行

怡土人権だより

発行：糸島市人権・同和教育推進協議会 怡土支部
略称：市同協怡土支部

「映画祭アンケート結果」



【結果と課題】
映画の内容については概ね良い評価をいただきましたが、若年世代の参加がまったくありませんでした。コロナ感染で参加者を絞った取り組みになっていることも一因ではありますが、若い世代に魅力的となる取り組みに努めて行かなければなりません。

人権映画祭

「われ弱ければ」

矢嶋 楯子 伝

映画を鑑賞して

令和4年12月4日に開催された、市同協怡土支部主催の「人権映画祭」に参加しました。江戸後期から大正時代にかけて、女性の地位向上に尽くした矢嶋楯子の生涯の物語でした。7人姉の6女に生まれ「誕生そのものが歓迎され

明治・大正という女性が人間として尊重されることのなかった時代に、生涯を通じて一夫一婦制・禁酒・廃娯・世界平和・男女同権運動などに一生を捧げました。映画を通じて、厳しい男尊女卑のなかで、



【三雲行政区 S・K】
楯子没後まもなく百年になろうとしています。とはいえ、まだまだ道半ばでもあるような気がしてなりません。

コロナ感染防止にご協力を!
新型コロナウイルス感染症はまだまだ続いております。各自、対策を取りつつ、周囲に対して思いやりを持ちながら生活を続けていきましょうね!

今日では想像もできない時代に、自己を忘れることなく、信念をもって、自らの言葉で、恐れることなく道を切り開いていく姿に感動しました。

前原東中学校の
人権委員会活動について

「あ」とがき
新型コロナウイルスによる感染症が蔓延し始めてから、早くも4年目に入ろうとしています。また、突然始まったロシアのウクライナ侵攻も1年になろうとしています。南米ブラジルでも、アメリカの議会襲撃を模倣したかのように、大統領選挙をきっかけとした議会への襲撃事件が起きました。お隣の中国は、いきなり止めたゼロコロナ政策のありで感染者爆発。韓国や日本は防疫強化に振り回され、このことに対する報復のような中国政府のビザ発給業務の停止。北朝鮮はミサイルを打ち続ける、日本政府は国民に問うことなく反撃能力を持つことを決めてしまった。

思いやり
相手の事を
考える S・T

大切な
みんなの命
まもろうよ M・O

振り向いて
きつと誰かが
待っている H・H

ともだちを
大切に
あそぼうね Y・S

その言葉
相手の気持ち
考えた? M・M

マスクでも
みんなと遊び
わらいたい Y・T

言葉は
えらんで言おう
たいせつに K・N

迷わずに
助けてあげよう
いじめから K・N

人どうし
命があるから
つながれる S・M

その一言で
どんなけがより
心がいたむ K・F

友だちと
遊んでいると
たのしいな S・S

いじめだめ
人をきずつけてしまう
強い武器 A・K

ありがとう
その一言で
あったまる K・N

ともだちと
たのしくあそぶ
たいせつさ R・I

ともだちは
自分が生きる
いちの希望 T・I

いじめはね
人がきずつく
だめなこと Y・N

友達は
一生消えない
宝物 R・O

怡土小学校人権標語 (5年生・6年生)

人生は一度きり
コロナに負けない
乗り越えよう S・T

大丈夫?
言っているのかな
その言葉 T・M

いじめだめ
みんながこまる
いやなこと K・Y

あいさつは
みんなをまもる
あいことば R・T

勉強だ
友達同士で
助け合い S・T

一人一人の友達を
大切にしよう
誰にでも E・M

いじめでさ
はばたく命
守ろうよ M・S

その言葉
言っているのか
考えた A・R

「ありがとう」
心の暖房
あったか言葉 K・T

前原東中学校人権作文 ソフトボールと野球

H・O

僕は、小学二年生から六年生までソフトボールをしていました。そして、ソフトボール部に入ってみたく思っていました。ソフトボールは女子だけと知りませんでした。その時は「なんでだろう」と思っていました。そこまで深く考えてはいませんでした。野球部に入ってみようかとは思いましたが、野球には、くわしくなく自信がなく、野球部はあきらめて違う部活に入りました。僕の他にも男子も、女子も「ソフトボールしたかった」や「野球したかった」などがあると思えました。それを今、人権の事として考えてみると、これはおかしいんじゃないかと思えました。よくこのことを知ってみたかったので調べてみると、

他には少し性別になってしまふようなこともありました。この理由を知ってまだ少し性別がのこっているけど、ちゃんと理由を知れてよかったです。これらのことから、僕は「性別」という言葉に興味を持ちました。そして性別について知るために調べてみました。性別とは、他人に対して、性別を理由に、排除や制限などの不利益を不当に及ぼすことをいうそうです。女性差別や男性差別などがあり、性別が正当なものであるとする考え方は性別差別主義と呼ばれ、性別をなくすることはジェンダーフリーというそうです。そして、世界には今も男女間にある不平等を訴え、格差をなくそうという取り組みが様々な国や地域で行われています。男女間の不平等は古くから存在していますが、それは狩猟をしていたころ

(二〇〇五年) 中学や高校では、女子は公式戦に出られないことになっていて、かつては大学やプロでも女子は試合に出られなかったそうです。これが、女子が参加しない大きな理由になっているのだと思います。他には、ソフトボールは、野球を気軽に楽しめるように、レクリエーション用に作られたスポーツで、野球をやりたい女子がソフトボールをやれるようになったのではないかと、現在は高校の女子の野球の大会もありますが、まだ歴史が浅く、参加校も少なく、男子のソフトボールもあるのですが非常にマイナーで、男子は野球に行ってしまうそうです。

確かに男性と女性では身体的な違いから、そのような役割の違いが生まれてくることは必然だったかもしれませんが、しかし男性が優位であり、女性が劣るといふことはありません。また現代において、狩猟はなされず、男女が公平に活躍できる社会が築かれようとしています。そんな中で古い慣習や性別による差別によって、不平等により様々な機会を奪われてしまうのは、経済や社会の発展の妨げとなる可能性もあります。言い換えれば、男女が公平かつ平等に基本的な人権を享受することができれば、持続可能な社会を推進することにもつながります。性別の事を前よりよく知れて、僕にできることは性別を「悪いもの」ではなくして、良いものにして、みんな平等にしていきたいと思います。

私は、今まで人権を守るといふことは、相手の立場を尊重し、協力して、コッソツとより良い社会を作ることだと考えていました。しかし、戦争が始まってしまえば、一瞬にして命(人権)を奪われる可能性があらわれます。今の日本は、反撃能力強化として防衛費の増額を目指していますが、それを操作するのは人間です。そもそもその問題として、「人間が他人の命(人権)をうばっていいのか、その人の家族や周りの人達を困らせていいのか」ということをよくよく考えなければならぬのではないのでしょうか。

私は、戦争体験者の話や、ウクライナの現状を見て、命(人権)の大切さをあらためて痛感しているところです。

令和4年、ロシアのウクライナ侵攻により、人間が人間に危害を加える戦争が始まりました。ウクライナ軍兵士は、侵攻された自国を守るというまだしも目的はあるが、ロシア軍の最前線の兵士はどうなのでしょう。兵士自身に目的意識がなく、上からの命令により、戦いたくもない相手と戦争を行うことがどんなに嫌なことかは容易に推察できます。

日本でも、戦争体験者の兵士や一般市民の話や、あんな悲惨なことは絶対にしてはならないと力説されるものがほとんどです。

私は、今まで人権を守るといふことは、相手の立場を尊重し、協力して、コッソツとより良い社会を作ることだと考えていました。しかし、戦争が始まってしまえば、一瞬にして命(人権)を奪われる可能性があらわれます。今の日本は、反撃能力強化として防衛費の増額を目指していますが、それを操作するのは人間です。そもそもその問題として、「人間が他人の命(人権)をうばっていいのか、その人の家族や周りの人達を困らせていいのか」ということをよくよく考えなければならぬのではないのでしょうか。

